

平成25年度 第2回特別支援学校支部交流会 (報告)

1期日 平成25年11月1日(金) 10:20~15:00

2場所 高知県立高知若草養護学校 視聴覚室

3参加者

本校参加者 のべ人数18人(終日 9人、情報交換会のみ 1人、研修会のみ 8人)
他校参加者 のべ人数20人(終日 13人、情報交換会のみ 4人、研修会のみ 3人)

4交流会の内容

(1) 開会行事 10:20~10:30

○渡辺校長挨拶

○高P連 生永慎一会長挨拶

○出席者の紹介

○高P連事務局 中村哲夫氏より報告

- ・高P連の活動の中で定期総会、研修会への参加のお礼。教育長表彰への取りまとめ、役員会への出席お礼。
- ・来年の中・四国地区高等学校PTA連合会の準備をしている。是非参加してほしい。大会要項の作成やアトラクション(3校に依頼、特別支援学校にも依頼)を準備。
- ・高P連表彰の審査委員会を本日夜に開催。表彰されるのは基本17名だが、16名の表彰要望が提出されている。香長地区からは0名。
- ・平成26年度の全国高等学校PTA連合会会長賞(来年3月中旬が締め切り、4・5月に審査委員会)の表彰の依頼の取りまとめをお願いすることになっている。
- ・平成26年2月1日に高P連研修会と表彰を実施。
- ・高知県高P連のPTA賠償責任保険、自動車総合保険(個人で入)の説明。
- ・高校生総合保険の説明。

(2) 情報交換会(各校PTA活動の報告) 10:30~11:30

【高知若草養護学校(天目PTA会長)】

・「PTA組織図」に基づいて、活動を発表。追加で昨年からはじめたPTAレクリエーションとおやじの会について報告。

【高知江の口養護学校】

・総会、後援会便り、廃品回収、研修会、学園祭でのバザーやゲームコーナーの担当、保護者同士の交流などPTA活動の報告。

・平成25年度高P連特別支援学校支部補助事業の実施について説明、報告。

【盲学校】:資料に基づいて事務局から報告。

【高知ろう学校】

・PTAの中に事業部(産工展示会と運動会、学園祭での弁当の準備販売)、研修部(校内PTA研修会、通信の発行、親睦会、レクリエーション、学園祭でのステージ発表など)があり、希望をとったうえで活動。

・平成26年1月に実施予定の高P連特別支援学校支部補助事業について説明、報告。

【日高養護学校】

・PTA会員が研修部(視察研修、知的P連中四国大会への参加など)、事業部(夏まつりでの売店、バザーの運営、学習発表会での弁当販売など)に分かれて活動。

・その他として、今年度から保護者同士の親睦を深めるために地区会(5地区に分かれて)を実施。他に親子ふれあいデー、PTAサロン、愛校作業、昼食会などを実施している。

【山田養護学校】

・PTA会員が、研修部(各種大会への案内や参加、施設見学など)、広報部(PTA新聞、愛校作業、子育て体験記など)、事業部(山田まつり、刃物まつり、など地域のお祭りへの参加、使用済み切手の収集など)のいずれ

かに所属して活動。また、地区別（高知、南国、安芸、香南）の活動を実施しており、参加も多くなっていると報告。

【中村特別支援学校】

- ・会長（1）、副会長（各学部より1名ずつ）、校長の5名で役員会を運営。
- ・研修会（作業所や施設などの視察研修）、地区別活動（親睦を深め、地区の中で助け合い地域の力を高めるために）で会員が参加できることを実施（バーベキューなど）、愛校作業、茶話会、給食試食会などを行っている。

【土佐希望の家分校】

- ・会長（1）、副会長（3）、事務（1）、会計（1）、監査（2）で役員会を年8回実施。
- 保護者のつながりを作るためにPTAレクリエーション（夏休みにコンサート）、研修会、「陽だまりの会」、ベルマーク分別、希望の家祭でバザーなどを実施している。

【質疑応答・その他】

○高P連事務局長 中村哲夫氏

- ・全P連の会がH25は山口県で、平成26年度は福井県で行われる。
- 大会では各県2校のPTA便りを展示しており、PTA便りを発行していて展示しても構わない学校は事務局に出してほしい。各校検討してほしい。

○司会：天目会長

- ・各校の報告について詳しく聞きたい場合は、担当校へ問い合わせをしてほしい。

○平成26年度特別支援学校支部事務局校 高知江の口養護学校 高岸校長 挨拶

- ・総会や研修会の時間や情報交換会での各校から提出される資料の様式の統一などの意見をいただきたい。平成26年度はよろしくお願ひしたいとのこと。

5 研修会の内容 12:30～14:50

(1) 講演 テーマ「災害時の避難所の生活について」 12:30～13:30

講師 高知市健康福祉部障がい福祉課 主任 関田 学俊氏

講演内容

3月17日から24日まで南三陸町に滞在し、支援員として活動したことを話された。

① 東日本大震災に関するデータの提示（日時、規模、各地の震度、被害の状況等）

- ・津波についての説明
- ・津波の最高値…宮古市 38.9メートル
- ・津波遡上高と津波の高さの違いの説明
- ・被災者による津波の威力の話（ビデオ）

② 南三陸町の被害の様子（写真を提示しての説明）

- ・避難所の様子…低いダンボールで区切られた空間であり、床も段ボールが敷けたらまだよいほうである。そのままに寝泊りの状態であった（プライバシーはない）
- ・屋外の仮設トイレ…段差がありスペースも狭いため、車いすでは使用困難であった。
- ・未整理のまま積み上げられた救援物資…有効利用につながらない。運送業者が入りだすと、やっとな物資が有効に流れ出した。
- ・ヘリによる物資輸送
- ・薪による炊き出し…役所自体が被害を受けたため、支援者同士で進めるしかない状況であった。しかし、その方が地域を知っているということで運営がスムーズに行われる場合もあった。
- ・お寺なども避難所になっていたため、避難所の全体像の把握が非常に困難であった。
- ・様々な機関が支援に入っていたが、連携が非常に難しい状態であった。
- ・避難の状況
高齢者…高血圧、糖尿病を抱える方が多かった。家族単位での避難が多く、単独での避難はわずかであった。

精神障害者…薬が合わず、不安定になりやすかった。病院へ搬送されることも多かった。ただし、隣近所の方が一緒だったため、普段の様子等本人の状況について知ってくれていることで、ケアされやすい例も見られた。

障害児…児童の中での障害児への差別的言動もあつたり、隔離されている状況も見られた。

- ・福祉用具が不足しがちであった。
- ・インスリン、ストーマ等、医療資材が手に入らなかった。在宅酸素は、業者が独自に準備をしていた。
- ・障害者の安否確認については、社会福祉法人が行っていたが、利用者の状況はチェックできるが、在宅障害者の確認は困難であった。
- ・被災地の職員は一カ月程度休む間もなく、働いた。支援側の職員自体も被災者であり、支援やケアが必要であった。

③ 被災地での非常に困った問題

- ・ライフラインがストップする。
- ・電話が不通になる。
- ・ガソリンがない。
- ・暖房の故障で寒さが防げない。
- ・重大かつ広範囲での被災のため、様々な事業が再開できない。
- ・早期の段階では、救援物資が有効に生かされない。
- ・特別な薬や医療資材が手に入らない。

④ 普段から備えておくとよいこと。

【個人】

- ・服薬等行っている場合は、メモでもよいので準備しておくこと。
- ・平常心ではいられない、普段ありえないことが起こるのだとの心構えをしておく。
- ・日ごろ近所付き合いを大切にしておく。(台帳よりも有効に働く。)
- ・災害発生時は、自助(自ら逃げて助かろうと思うこと)の気持ちを持つことが大切。

【地域・団体・その他】

- ・日常的な活動での避難訓練を行っておく。
- ・要援護者名簿の作成をしておく。
- ・支援ボランティアは、自己完結型支援を行うことが現地スタッフの業務軽減になる。

⑤ これからの課題

- ・備蓄物資の充実
- ・福祉避難所運営体制の確立
- ・福祉避難所の周知

※福祉避難所＝要援護者のために特別な配慮がなされた避難所

(2) DVD視聴「逃げ遅れる人々～東日本大震災と障害者～」 13:50～14:50

6 閉会行事 14:50～15:00